

国際教育研究フォーラム

目次	頁
不足するデジタル人材をどう育成するか	小山 悦司 1
仮説実験授業を海外に広めるための取り組み	岡崎 則武 2 ~ 8
遠隔教育に伴う新たな大学設置基準の必要性について	前田 宗良 9 ~ 12
編集後記	12

不足するデジタル人材をどう育成するか

国際教育研究所所長 小山 悦司

近年、AI（人工知能）やデータサイエンス等をはじめとするデジタル技術の導入や活用は、国際的な重要課題と位置付けられている。スイスの国際経営開発研究所（IMD）が毎年公表する「世界デジタル競争力ランキング」の2021年版によると、日本のデジタル競争力の総合順位は28位となっており、経年的にみても順位が徐々に低下している（64か国・地域）。また、アジア地域に限っても、10位内のシンガポールや韓国、中国から引き離されている。

コロナ禍で加速化されたDX（デジタル・トランスフォーメーション）という大きな時代の転換期にある中、DXの推進を前提とした教育・人材育成システムの抜本的な整備が急務となっていることは論を待たない。DXの推進において重要な鍵を握るのは、最先端のテクノロジーを活用して、新たな事業を生み出し企業内の変革やシステムの刷新により価値を創出することができるデジタル人材である。経済産業省によれば、2030年には少なくとも見積もっても16万人、最大で79万人のデジタル人材が不足すると試算している。

このような深刻な状況を受けて、政府は「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」と題した教育未来創造会議の第1次提言（案）を2022年5月に公表した。提言では、「未来を支える人材を育む大学等の機能強化」、「新たな時代に対応する学びの支援の充実」、「学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備」の3点に焦点を置いて、デジタルなどの成長分野をけん引する高度専門人材の育成を図るための諸方策を提示した。

一方、政府の地域活性化策「デジタル田園都市国家構想」の基本方針原案では、(1) デジタル人材の育成、(2) デジタル基盤の整備、(3) 地方の課題解決、(4) デジタル弱者らの支援の4つの重点分野が明示された（2022年4月）。構想の実現には、先端技術に詳しくデータ分析などができるデジタル人材の確保が欠かせないとし、2026年度までに新たに230万人を育成し、既存の100万人と合わせて330万人の確保を目指すとしている。

これらの提言や方針では、デジタル人材の育成に向けて、オンラインによる大学間連携やSTEAM教育の強化、文理横断による総合知を創出するための大学等再編、産業界を巻き込んだリカレント教育の強化などの方策を打ち出している。これまでも同様な提言がなされてきただけに、従来の既成概念にとらわれず抜本的に変革しようとするDXの理念を教育・人材育成の分野で実行に移すべく、是非とも総力を挙げて具現化させたいものである。

仮説実験授業を海外に広めるための取り組み

— ひとりの小さな一歩から —

岡山理科大学 科学ボランティアセンターコーディネーター 岡崎 則武

はじめに

筆者は2022年3月まで岡山県立高等学校の教員（電気・情報系）として36年間勤務したのち、同4月より岡山理科大学科学ボランティアセンター（参考文献1）のコーディネーターとして勤務している。教員になった年に「仮説実験授業」と出会い、精力的に実施する中で、「この優れた授業原理を世界に広めていきたい」と強く思うようになり、いくつかの実践を行ってきた。といっても、多くが個人としての「楽しみ」「やってみた」レベルの取り組みである。ここでは、それらについて簡単に紹介することにする。

1. 海外での取り組みの概要

仮説実験授業（参考文献2）は板倉聖宣氏（1930-2018、国立教育研究所物理教育研究室長）が1963年に提唱した科学上の最も基礎的な概念や原理・原則を教えることを意図した教育科学の体系で、内容は、物性、化学、宇宙、数学、社会の科学など幅広く、多くが数年をかけ、全国の仮説実験授業研究会会員による検討と実践の繰り返しにより完成される。テキストとノートを兼ねた「授業書」という一連のプリントを1枚ずつ配布する形式を取っており、誰もが安心して、高度で深く、そして楽しい授業を実現することを可能にしている。

実際、仮説実験授業を受けた小学生から大人までのほとんどが、「とてもたのしい」「科学の素晴らしさと、それを理解できる自分に感動した」といった評価を残している。

筆者自身も高等学校や「わくわく科学教室」などで多くの授業書を用いて仮説実験授業を行い、これまでにない授業の体験に興奮し、それは生きがいともなっている。そこで、どんな場面を捉えてでも仮説実験授業を行いたいと考えてきた。

最初に英語で仮説実験授業を行ったのは、23歳当時に通っていた英会話教室での〈Blow Gun〉（日本語名「長い吹き矢短い吹き矢」）（参考文献3）という授業プランだった。いい加減な翻訳ではあったが、アメリカ人講師、受講生ともに大好評だった。

それに気を良くして、筆者は海外旅行が趣味ということもあり、個人レベルでよいので海外でも仮説実験授業（HEC:Hypothesis-Experiment Class）ができないものかと考えた。しかし、その上で最も問題になるのは「授業書は非常に分量が多い（およそ数十ページ、数時間が必要）」ということだった。そのようなまとまった授業時間を個人が旅行の中で確保すること

は困難である。

そこで、仮説実験授業のスタイル（【問題提示～予想～理由発表～討論～実験】の繰り返し）を、フリップを用いてコンパクトに「大道芸」的に行うことのできる NPO 法人 楽知ん研究所（参考文献 4）の「大道仮説実験」を英訳し、実施することにした。例えば、ものの転がる速さの違いを予想する「ooooころりん」（英訳名〈Go Rolling!〉）、簡易真空実験「しゅぽ↑しゅぽ↓」（英訳名〈Shupo Shupo〉）、真鍮パイプを落として即席の演奏をする「バンジーチャイム」（英訳名〈Bungee Chime〉）等は 20～40 分程度で実施できる。

以下では、活動主体を個人とグループに分け、具体的な実践例を紹介する。

2. 個人での活動

(1) アメリカ西海岸での〈Go Rolling!〉(2005) (参考文献 5)

外国人と一緒にバンに乗ってキャンプしながら 2 週間かけてグランドキャニオンなどを巡る多国籍ツアーに、日本人家族として初めて参加した。アメリカ人のツアーガイドとフランス人の家族と共に、会話がなかなか成立しないところからスタートし、最後は涙なみだの別れとなるまでの濃い旅だった。

授業はツアー終盤のブライスカニオン国立公園のキャンプ場にて、こじんまりと実施。大道仮説実験「ooooころりん」は、「ジュースの缶とツナ缶を坂道で転がすと、どちらが速い？」から始まる一連の実験である。条件の違う 2 つを同時に転がして、「重さ？直径？それとも…」と予想を立てて実験する中で、意外な結論にたどりつく。楽しそうな雰囲気、周りの人もいつのまにか参加して、挙手したり意見を言ったりして盛り上がった。「日本では、こんな楽しい授業が行われているのか？」と質問攻めにあった。

なお、英訳にあたってはネイティブとともに「ころりん」にマッチする英語を探したが見つからず、「ころりん」→「ごろりん」→「Go Rolling!」というシャレにより命名した。

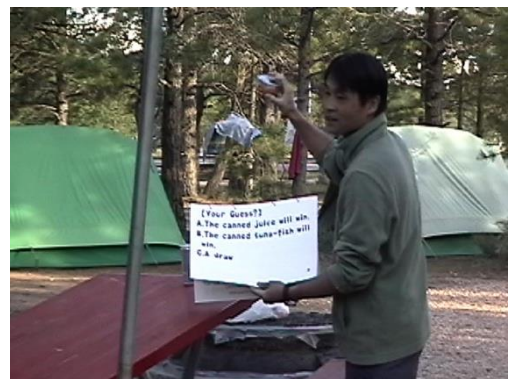


図 1, 図 2 アメリカのキャンプ場でアメリカ人やフランス人たちと〈Go Rolling!〉

(2) 世界各地での〈Bungee Chime〉

バンジーチャイムというのは、金属パイプの長さを音階に合わせて切断したもので、パイプに書かれた番号順に落とすことで誰でも一体感を持って演奏できるものである。バンジージャンプのように落ちる（落とす）ことからこの名前がつけられ、別名「世界一投げやりな楽器」とも呼ばれている。私はディズニー映画「ピノキオ」の主題歌「星に願いを」などが演奏できる 25 本のセットを楽知ん研究所で購入した。

特別な練習は不要で簡単確実に実施できるが、その場で人を集めるのに相当な度胸が必要である。旅行中のイベントとして、2006 年ハワイ、2007 年オーストラリア、2008 年アメリカ東海岸、2017 年モロッコ、2019 年ベトナム等で行った。



図3 NYセントラルパークでの〈Bungee Chime〉



図4 リンカーン記念堂前での〈Bungee Chime〉

2018 年のローマでは、現地ツアーガイドが「まじかよ」とつぶやく中で人を集め、広場の並み居る大道芸人たちの中でもっとも注目を集めた。



図5 モロッコでの〈Bungee Chime〉



図6 ローマでの〈Bungee Chime〉

バンジーチャイムは小袋に入るコンパクトなサイズなので、海外に出かけるときは欠かさず持参している。一瞬で人とつながることのできるこのバンジーチャイムは、言葉を超え、誰とも仲良くなれるという得難い体験を与えてくれる魔法の杖だ。

3. グループでの活動

(1) オーストラリア（アデレード）での〈Shupo Shupo〉（2017）

仮説実験授業研究会会員の宮本なつ江さんや、筆者の前任の科学ボランティアセンターコーディネーター武田芳紀氏を中心に、10年にわたり毎年夏に渡豪して仮説実験授業を実施しているグループに加わり、現地の小・中・高校で授業をさせてもらった。

「しゅぽ↑しゅぽ↓」は、簡易真空ポンプを使って、空気の粒（原子分子）をイメージしながら楽しい実験を繰り返していく授業である。最後の実験はマジックのようで、しかしながら原理が理解でき、それでもにわかには信じがたい。授業を受け興奮した小学生たちは、「今度はいつあの先生たちが来るの？」と一週間ぐらい言い続けるほど好評だったと聞いた。



図7 アデレードの小学校での〈Shupo Shupo〉



図8 アデレードの中学校での〈Shupo Shupo〉

(2) カンボジア移動理科実験教室（2019）（参考文献6）

2019年3月に、福岡の元高校教師 西村繕久仁氏が、「カンボジアで子どもたちに理科実験を見せたいのでアドバイスが欲しい」と、岡山市の「人と科学の未来館サイピア」を訪れた。西村氏は50歳で早期退職し、不動産事業の成功で資金を作り、カンボジアでも不動産や農場経営で利益を上げ、孤児院や学校、病院づくりに取り組んでいた。ポール・ポトによる大虐殺により知識層を中心に多くの大人を失い子どもばかりとなったこの国は、学校も教員も不足しており、授業は座学のみで理科実験も体育もない。そこで、「小学校を回って理科の実験を見せたい。それを参加者にツーリズムとして提供し、きちんとお金が回る形で継続的に運営したい」と西村氏は言う。筆者はその第1号として単身カンボジアに渡り、南部のカンボット州の小学校で2日にわたり〈Shupo Shupo〉〈Blow Gun〉を行った。（ただし、カンボジアでは英語は通じないので、クメール語の話せる通訳を通した）また、ちょうど日食の日だったので、日本から持参した簡易日食メガネをプレゼントし、太陽の欠けるさまを観察してもらった。日食メガネは、仮説実験授業研究会の仲間である坂井美晃氏が製作してくれた。実験というものの経験のない子どもたちは、「いま、やっているのは何なのか」「予想を立てるといえるのはどういうことか」さえも十分に認識できていない様子だったが、無心

にストロー吹き矢を飛ばしたり、砂鉄と磁石で遊んだりする姿には、心に迫る素朴な感動があった。多くの日本人に来てもらいたい。心からそう思った。



図 9, 図 10 「カンボジア移動理科実験教室」での様子

(3) 英国科学教育協会（ASE）カンファレンスでの発表(2022)（参考文献 7）

2022 年 1 月、英国科学教育協会（ASE: Association for Science Education）が主催する ASE Annual Conference 2022 に、仮説実験授業を海外に紹介することに意欲を持つ、千葉科学大学の塚本浩司教授、京都大学の舟橋春彦教授、中学校講師の小林真理子氏、長谷川智子氏、京都大学大学院生の阿部春樹氏とともに参加した。

仮説実験授業でもっとも人気のある授業書である《もしも原子が見えたなら》は、低学齢期から原子分子のイメージを豊かに描かせ、それを元に本格的な科学に入門させることに成功しており、それは世界的に見てもオーストラリアの Ian Stuart 氏（参考文献 8）ぐらいいしか実践者がいない特徴的で革新的な教育手法となっている。

京都大学で仮説実験授業を研究していた米国人の Michael・M・Hull 氏も参加協力し、ウィーン大学での実践を交えながら質問に丁寧に答えてくれ、（筆者たちの英語力では歯が立たないので非常に助かった）、分子模型やアニメ、アプリにまでわたる多彩な教材紹介を含め、日本の生んだ原子教育のアドバンテージについて幅広く紹介することができた。

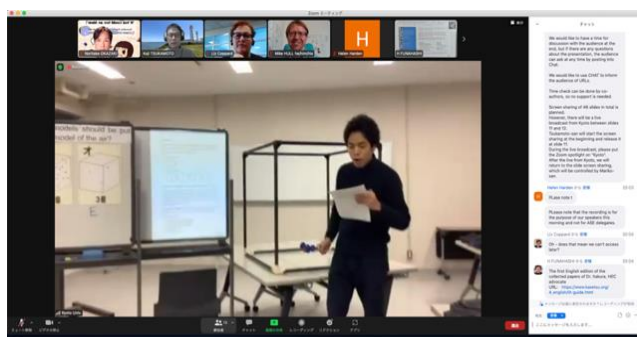


図 11 ASE2022（オンライン）での発表の様子

開催に合わせ「Let's enjoy “If You Could See an Atom”」（参考文献 9）という英語マンガの Kindle 本を世界出版した。福岡の小学校教師 中村文氏が、授業書《もしも原子が見えたなら》の授業記録と授業実施マニュアルをマンガにし、それを日米の科学教育のわかる翻訳者 A.Clemmens 氏と共に小林真理子氏

が英訳し、筆者が編集し、出版にこぎつけた。



図 12, 図 13 Amazon Kindle で販売中の「Let's enjoy “If You Could See an Atom”」

4. 今後の展望

以上で紹介したように、仮説実験授業を海外に紹介する手段としての楽知ん研究所の「大道仮説実験」は、どこでも非常に好意的に受け止められ、試みは成功したといえる。

この実績を元に、今後は現地校で1つのプログラムとして数時間単位の授業枠を確保してもらい、仮説実験授業の本格的な授業書を実施していく態勢を整えていくことに取り組んでいきたいと思う。岡山理科大学はモンゴル国立教育大学と包括提携協定を締結しており、2019年には同大学や現地の高等学校で仮説実験授業を実施している。(参考文献10) 筆者も本年度より岡山理科大学科学ボランティアセンターのコーディネーターに就いたことから、このような取り組みをさらに広げていく活動を模索したい。

また、海外の教育研究団体での発表は、仮説実験授業のプライオリティの主張と普及の両面から意義があると考えられる。(参考文献11) 千葉科学大学の塚本浩司教授らとともに今後も参加して仮説実験授業を世界に紹介していき、それによって、たのしくて本格的な科学の授業を受けることのできる児童生徒を増やすことに貢献したい。

おわりに

2022年の春。コロナ禍による渡航制限が徐々に緩和されつつあり、すでに世界は動き出している。筆者や科学ボランティアセンターにとっても、カンボジアやモンゴルへの扉が再び開かれつつある。海外での活動を奪われたこの2年あまりは残念だったが、一方で、オンラインの可能性は誰もが知るところとなり、技術は普及し共有され、その上でリアルの対面の持つ価値が改めて見直されている。私たちは確かに学び進化したとを感じる。

未来のことはわからない。でも、想像することはできる。そして、作ることもできる。

ウィルスの猛威、戦争…。困難な事態が次々に21世紀の人類を待ち受ける。しかし、科

学ボランティアセンターのスタッフ会に見られる、自律的に創意工夫し、予想しながら動く人材が毎年生まれ続けている手応えは、まさに希望そのものである。

岡山理科大学から自転車で15分の「人と科学の未来館サイピア」から、遠く海のむこう、空の果てまで。仮説実験授業の可能性を、これからも学生とともに届け続けたいと思う。

参考文献等

- (1) 科学ボランティアセンターの詳細についてはホームページを参照のこと
<http://ridai-svc.org/>
- (2) 『たのしい授業』編集委員会編、『仮説実験授業をはじめよう』仮説社、2016年
- (3) 小林浩行・塩野広次、「長い吹き矢 短い吹き矢 授業書と授業記録」、『たのしい授業』1986年5月号、仮説社
- (4) NPO 法人楽知ん研究所とその著作物についてはホームページを参照のこと
<https://luctin.org/>
- (5) 岡崎則武、「Go!Rolling!! 〈ころりん〉は国境を越えた 大道仮説実験 in USA」『たのしい授業増刊 国際教室へようこそ』仮説社、2010年11月号
- (6) カンボジア移動理科実験教室参加記はホームページを参照のこと
<https://note.com/55sensei/n/n9c0549730365>
- (7) ASE2022でのセッションについてはホームページを参照のこと <https://sched.co/kgq8>
- (8) Ian Stuart 氏の「アトミックスクール」についてはホームページを参照のこと
<https://atomicschool.com/>
- (9) Aya Nakamura, Noritake Okazaki, Mariko Kobayashi. *Let's enjoy 'If You could See an Atom'! : Innovative Science Teaching through HEC Enables Early Exposure to Atomic Theory*, HEC World Team については Amazon で検索のこと
- (10) 高原周一、「科学ボランティアセンターの現状と今後の展望—モンゴルでの国際交流活動を中心とした活動紹介—」、『国際教育研究フォーラム』第86号、pp2-7、2020年
- (11) 塚本浩司、「仮説実験授業の理論と、1980年以降の英米における"新しい物理教育研究"」、『物理教育』Vol. 52, No. 2, pp133-139、2004年

遠隔教育に伴う新たな大学設置基準の必要性について

—通信制大学と通学制大学の授業方法から—

倉敷芸術科学大学大学院修士課程（通信制）修了生 前田 宗良

はじめに

今日、新型コロナウイルス感染者数が急増する中で、大学教育においては様々な対応がとられている。特に、文部科学省では、「大学等における遠隔授業の取扱いについて（周知）」（令和3年4月2日付け3文科高第9号）（以下「特例措置」という。）において、新型コロナウイルス感染拡大に伴う特例措置が認められている。それは、遠隔授業で修得した単位は、全て面接授業で修得した単位として認めていることである。

しかし、大学の授業方法は、「対面授業」を中心とした制度となっているため、遠隔授業を積極的に取り入れた仕組みとなっていないのが現状である。そのため、遠隔教育を取り入れている「大学通信教育」の授業方法に目を向けることで、新たな方策を模索できるのではないかと考えられる。

そこで本稿では、このような緊急事態に対応するために、通信制大学と通学制大学の授業方法について考察し、現在の大学設置基準はどうあるべきか明らかにする。

1. 通信制大学の授業方法

通信制大学の授業方法については、大学通信教育設置基準第3条の規定により、4つの授業方法が定められている。具体的には、第1に「印刷教材等による授業」である。テキストや参考文献をもとに授業を進め、課題レポートを提出し、レポートが合格すると、科目修了試験を受験する仕組みとなっている。第2に、「放送授業」である。放送大学が主に行っており、テレビ、ラジオ、インターネットを利用した放送授業が中心である。視聴後は、課題レポートを提出し科目終了試験を受験するなど印刷教材等による授業方法と同様である。第3に、面接授業（スクーリング）である。大学が指定する日に一定期間大学に通学し授業を受ける形態であり、多くの大学で行われている授業方法である（大学のキャンパスやサテライト、夜間・地方での面接授業（スクーリング）等）。第4に、「メディアを利用して行う授業」である。自宅のパソコンからインターネットを利用して授業を進めていく形態である。インターネットを利用し、面接授業（スクーリング）と同じ内容の授業（オンデマンド方式やリアルタイム方式）を自宅で一定期間受講する仕組みである。受講後は、課題レポートを

提出し科目終了試験を受験するなど印刷教材等による授業方法と同様であるが、全てインターネット上で行われる。

卒業要件（大学通信教育設置基準第6条2項）として、修得すべき単位数124単位のうち30単位以上は、「面接授業」又は「メディアを利用して行う授業」により修得するものと定められている。ただし、当該30単位のうち10単位までは、「放送授業」により修得した単位で代えることができるとされている。

つまり、「メディアを利用して行う授業」のみで卒業が可能であるといえる。

2. 通学制大学の授業方法

通学制大学の授業方法については、大学設置基準第25条により、2つの授業方法が定められている。具体的には、第1に、授業は大学のキャンパスで、「講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うもの」¹⁾と定められている。つまり、通信制大学でいう「面接授業」のことである。第2に、同令第25条第2項では、大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、同令第25条1項の授業を、「多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」¹⁾とされている。いわゆる、「遠隔授業」のことである。

卒業要件（大学設置基準第32条）として、「大学に4年以上在学し、124単位以上を修得すること」¹⁾定められている。ただし、第5項で「卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第25条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。」¹⁾と定められている。つまり、「遠隔授業」は、60単位を超えない範囲で認められていることになる。

しかし、今日においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い特例措置が認められている。この特例措置の「遠隔授業の実施に関する取扱い」において、上述したように、大学設置基準で「遠隔授業」により修得した単位数は60単位を超えないことが規定されているが、「同令第25条第1項等で規定する面接授業により実施する授業科目は、主に教室等において対面で授業を行うことを想定したものであり、例えば、面接授業の授業科目の一部として、いわゆる同時性又は即応性を持つ双方向性（対話性）を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められる遠隔授業を実施する授業時数が半数を超えない範囲で行われる授業科目については、面接授業の授業科目として取り扱う」²⁾として、同令第32条第5項等の規定により60単位を超えない上限の算定に含める必要はないこととされている。したがって、特例措置により遠隔授業で修得した単位は、面接授業で修得した単位として認められることになる。

3. 新たな大学設置基準の必要性

通信制大学は、「大学通信教育設置基準」において、授業方法や卒業要件等が定められ、一方、通学制大学では、「大学設置基準」において、授業方法や卒業要件等が定められている。同じ大学資格を得る方法でありながら、通信制大学と通学制大学は設置基準において区分されている。

授業方法に目を向けると、通信制大学は、4つの授業方法、通学制大学では、2つの授業方法が認められている。

今般、新型コロナウイルス感染症拡大により、特例措置が認められている中で、授業方法においてさまざまな問題点があると考えられる。

第1点に、通学制大学において、大学設置準第25条第2項では、遠隔授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとされている中で、特例措置により遠隔授業で修得した単位は、面接授業で修得した単位として認められている。(同令第32条第5項等の規定により60単位を超えない上限の算定に含める必要はない)

つまり、通学制大学では、特例措置により面接授業で修得すべき単位を全て、遠隔授業によって認められていることである。

第2点目に、通信制大学と通学制大学の遠隔授業の違いである。

通信制大学の遠隔授業(メディアを利用して行う授業)は、インターネットを利用し、面接授業(スクーリング)と同じ内容の授業(オンデマンド方式やリアルタイム方式)を自宅で一定期間受講する仕組みである。一方、通学制大学の遠隔授業では、特例措置においては、「同時性又は即応性を持つ双方向性(対話性)を有し・・・(省略)・・・」となっており、基本的には双方向のリアルタイムの授業となっている。

つまり、同じ遠隔授業であっても通信制大学と通学制大学では考え方が異なっていると考えられる。したがって、通信制大学と通学制大学では、授業方法の考え方が異なっており、同じ大学資格を得る中では問題が生じるのではないかと考えられる。

これらを解決するためには、新たな大学設置基準が必要になってくるのではないかと考えられる。

おわりに

本稿では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い通学制大学において特例措置が認められる中で、通信制大学の授業方法や通学制大学の授業方法から新たな大学設置基準の必要性を提起したところである。

今般、コロナ感染症拡大における通学制大学の授業方法の変更に伴い、遠隔授業を主体におかれた流れへと教育方法が変わらざるをえない状況となり、大学側と学生側との間で様々

な問題が生じている。例えば、大学側では、遠隔授業に向けたシステムの導入や教育教材の準備が必要となり、学生側では、遠隔授業を受けるためのネット環境を準備する必要があるなど様々な問題に直面してきている。

日本の大学制度は、通学制大学において「対面授業」の教育方法を想定した制度となっているため、遠隔授業を取り入れた教育方法が積極的に行われていないのが現状である。これからは、コロナ感染症拡大などに対応できるよう平常時から積極的に遠隔授業を取り入れた教育方法を定めていかなければならないと考える。さらには、遠隔授業だけではなく、通信制大学で認められている、「印刷教材等による授業」や「放送授業」を取り入れていくなど、新しい大学教育システムを構築していかなければならないであろう。

参考（引用）文献

- 1) 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号） e-Gov 法令検索（2022.05.04 取得）
- 2) 大学等における遠隔授業の取扱いについて(周知)(令和3年4月2日付け3文科高第9号)
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00027.html（2022.05.04 取得）
- 3) 大学通信教育設置基準（昭和56年文部省令第33号） e-Gov 法令検索（2022.05.04 取得）
- 4) 前田宗良、「大学における遠隔教育の制度化の必要性について—通信制大学の視点から」、『国際教育研究フォーラム』（国際教育研究所）第86号、2020.8.

【編集後記】

「国際教育研究フォーラム」93号では小山悦司所長、岡崎則武氏、前田宗良氏の3編のエッセイを掲載しました。小山所長は我が国のデジタル競争力が国際的に低下している主な原因はDXを推進するデジタル人材の不足であり、政府がその人材の育成に向けて様々な方策を出す中で、特に従来の既成概念にとらわれずに抜本的に変革しようとするDXの理念を教育・デジタル人材の分野で実行に移すべく、是非とも総力を挙げて具現化させたいものであると述べています。岡崎氏は楽しい授業が展開できる「仮説実験授業」を海外で実施し、多くの賛同を得た体験事例を紹介することを通して、この授業の素晴らしさとさらなる可能性について述べています。前田氏はコロナ禍で通学制大学が遠隔授業を余儀なくされる中、通信制大学の視点から新たな大学設置基準の必要性について述べています。

今回掲載しました3編の内、2編は我が国が解決を求められているデジタル社会への対応を、1編は我が国独自の教育方法の海外への普及の取組を扱っています。

その意味でも、3編とも興味を持って読んで頂けるものと確信しています。(T.A.)

編集・発行：国際教育研究所
〒710-0821 倉敷市川西町 11-30
加計国際学術交流センター内
TEL (086) 423-1611 (代)
FAX (086) 423-1668 (代)